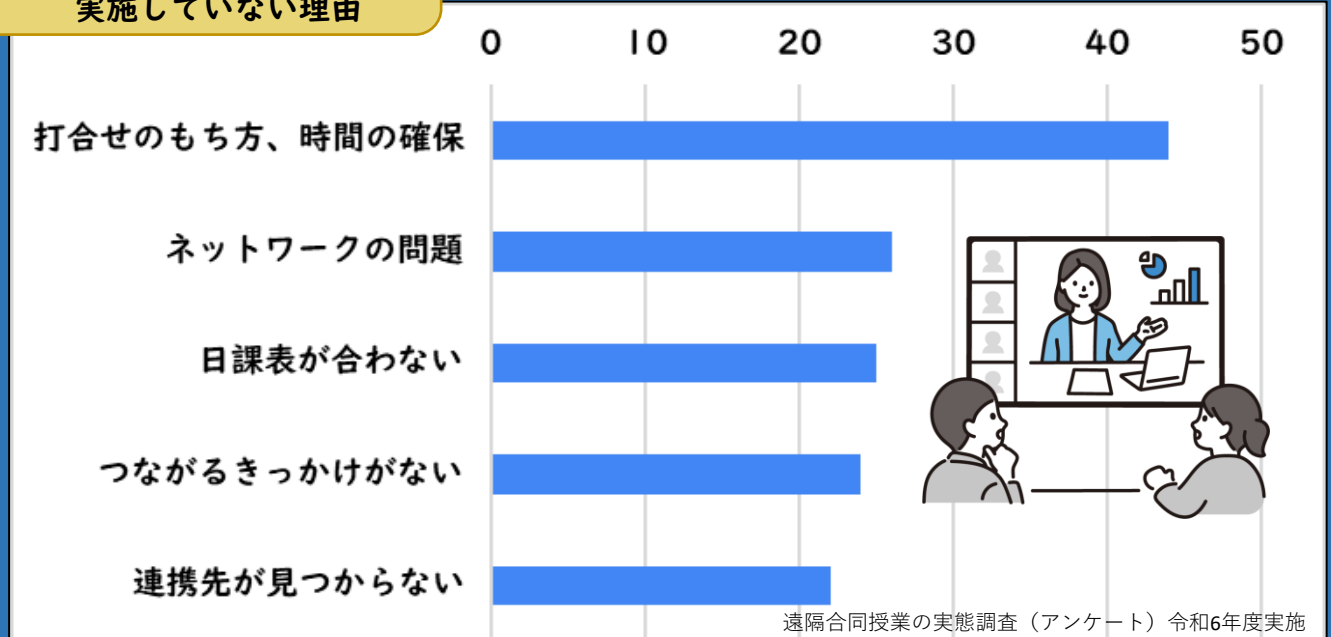


# 遠隔教育の推進

遠隔合同授業を  
実施していない理由



どんな機材が  
あればいいのかな？  
自校の備品で  
足りるのかな？  
→ P 1

相手校って  
どうやって見付けたら  
いいのかしら？  
→ P 4

もっとたくさん意見を  
交流させたいな…  
→ P 2



## <最低限必要なもの>

- ① PC 2 台（ア…教師用、イ…教室撮影用）  
※アとイを兼ねて1台で接続することも可能です。
- ② モニター
- ★（必要に応じて）マイクやスピーカーなど

### A校

### B校



#### ① PC 2 台（ア…教師用、イ…教室撮影用）

- ・ア…授業者や黒板を映したり、授業者の音声を拾ったり、学習で使用する資料を共有したりすることがに使います。
  - ・イ…児童生徒や教室全体の様子などを映すことに使います。
- ※タブレットやビデオカメラでも代用できます。ただし、ビデオカメラを活用する場合は、ビデオキャプチャーが必要になります。

#### ② モニター

- ・PCと接続し、相手校の様子を表示します。
- ※資料や児童生徒の画面の大きさを、授業展開に応じて調整します。Web会議システムの種類に応じて、ピン留め機能などを使うと便利です。

#### ★（必要に応じて）マイクやスピーカーなど

- ・マイクとスピーカーが一体になったスピーカーホンを使用すると、1台で対応できます。

# 多様な考えに触れ、自身の考えを深めるために…



## ＜実践で活用したもの＞

- クラウド型学習支援アプリ（チームズホワイトボード、ロイロノートなど）
- ※ブラウザ上で使用できるものもありますので、授業展開や接続環境等に応じて、自校に合ったものを選択してください。

## ○ 立場や意思の表出

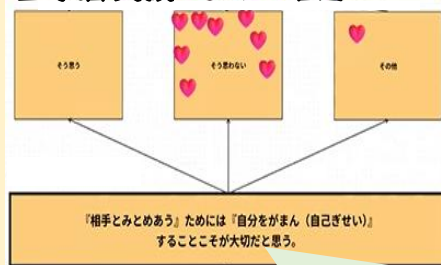
### ・身体表現による意思の表出



教師の発問や問い返しに対して、ジェスチャーを用いて考えを表現します。

### 発展

### ・クラウド型学習支援アプリを活用した立場の表出



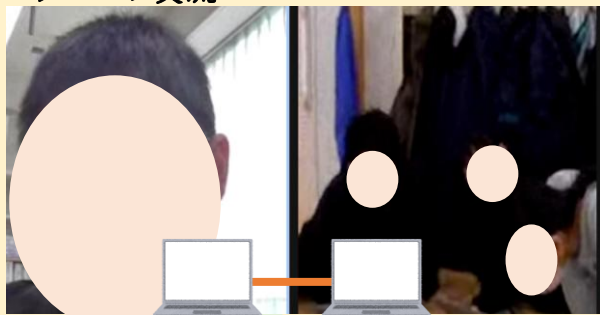
クラウド上で、記号を用いて自分の立場を表出します。

立場や意思の違いを明確にすることで、交流の必要性が高まります。

導入  
（例）

## ○ 思いや考えの交流

### ・グループ交流



両校の児童でグループを編成し、考えを交流します。

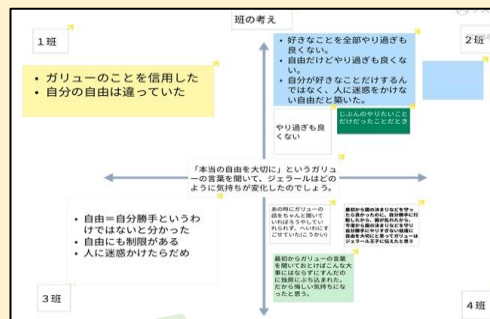
### ・全体交流



自分の考えの根拠や理由を示し交流することで、他者との比較から考えを深めることにつながります。

### 発展

### ・クラウド型学習支援アプリを活用した考えの交流



グループ交流の内容をまとめ、クラウド上で考えを共有します。

相手校に向けて、自分の考えを説明します。

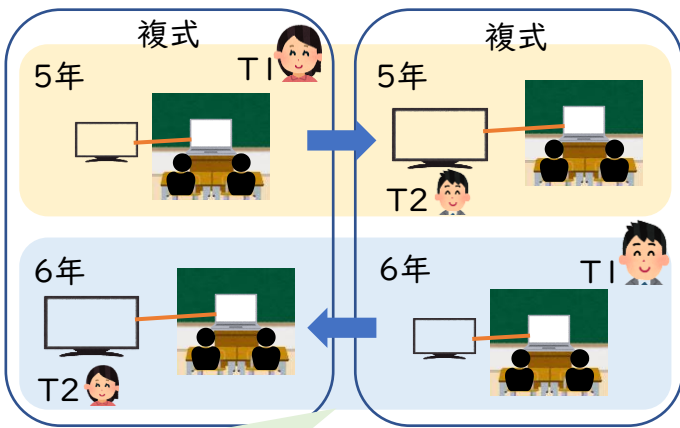
展開  
（例）

両校の日課表が合わない場合は、交流の時間だけでも接続することで多様な意見に触れることができます。



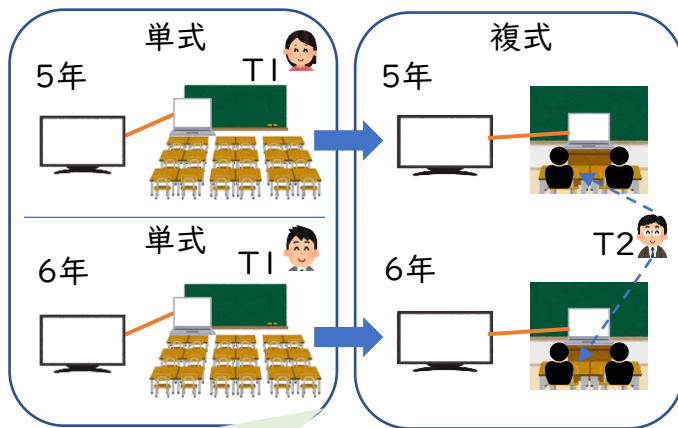
# 遠隔合同授業の接続の形態（例）

## ① 複式学級同士



各学年ごとに接続します。複式学級同士で接続する場合は、両校の教師がそれぞれ1学年ずつをT1として担当した方が、授業を円滑に進めやすいと考えられます。

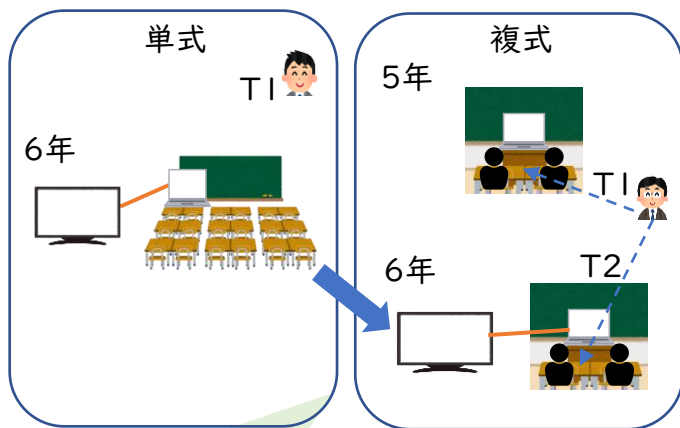
## ② 単式学級と複式学級（2つの学年）



各学年ごとに接続します。単式学級の教師がT1を担当した方が授業を円滑に進めやすいと考えられます。複式学級の教師は、各学年のT2として、子どもの様子に応じた働きかけを行います。

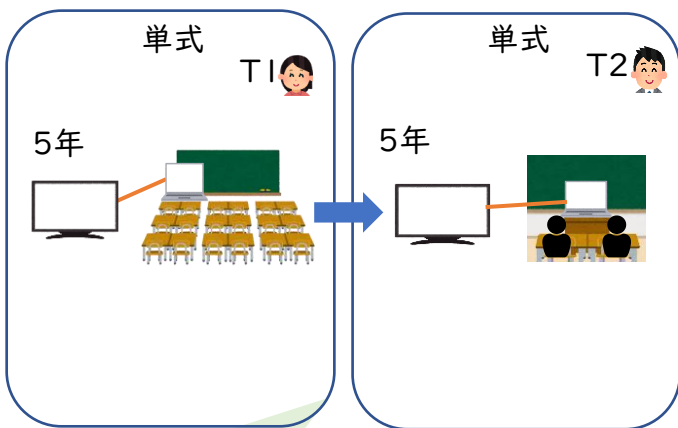
複式学級で2つの学年を接続する場合は、モニターやPCの位置が近すぎると音声のハウリングが発生するおそれがあるため、機器の配置を調整したり、マイクをミュートにしたりするなどの対応が必要です。また、状況に応じて、子どもが1人1台端末で参加し、ヘッドセット等を使用することで、こうした問題の解消が期待できます。

## ③ 単式学級と複式学級（1つの学年）



片方の学年のみを接続します。複式学級を担当する教師は、複式授業を行いながら指導に当たることになるため、単式学級の教師がT1を担当した方が、授業を円滑に進めやすいと考えられます。複式学級の教師は、接続していない学年の授業をT1として進めながら、接続している学年のT2として、子どもの様子に応じた働きかけを行います。

## ④ 単式学級同士



一般的には、規模の大きい学級の教師がT1を担当した方が、授業を円滑に進めやすいと考えられます。一方で、小規模校の教師がT1を担当することで、小規模校の子どもがより主体的に授業へ参加しやすくなるといった効果が期待できます。

# 相手校を見付けるために…



遠隔教育を希望する学校同士をつなぐ仕組みとして、北海道立教育研究所が作成した遠隔教育コミュニティサイト「であえる」があります。

<https://sites.google.com/doken.ed.jp/enkaku-community/index>



遠隔教育コミュニティサイト

# であえる

遠隔教育で子どもたちの学習の機会が充実します！



協働して学習に取り組む



多様な意見や考えに触れる

**このようなお困りをおもちのときに登録ください！**

- ・少人数学級で、話し合いを広げることが難しい（教師とのやりとりになりがち）
- ・いつも同じ相手に発表して慣れてしまっているため、異なる相手への発表の機会を設けたい
- ・地域の気候や産業について、他地域と比べる学習をしたい

遠隔交流実施までの流れ

① 登録

自校の情報を登録します

登録

登録フォームから自校の基本情報等（※）を登録します

登録した内容が本サイトに掲載されます。  
※登録から掲載には数日かかります

② 検索・連絡

掲載された内容を見て遠隔教育を実施したい学校に連絡したり、他の学校からの連絡をお待ちいただけます

相手校の検索

掲載された内容を閲覧し、遠隔教育を実施したい学校を探してください

〇〇学校と実施したい学年が合っているな。つながってみたいな。



国語で実施したい学校はないかな。

相手校への連絡

遠隔交流を実施したい学校が見つかったら、直接連絡してください

サイトを見て連絡したのですが、実施の検討に向けた打合せをさせていただけませんか？

〇月〇日〇時  
をお願いします。

※本サイトを見た学校から連絡が来る場合もあります

③ 打合せ

※必要に応じて

遠隔教育に向けた打合せを行います

日課表は〇〇学校に合わせませう。



分かりました。子ども同士の事前交流は行いますか？

実施が決まりましたら、実施決定フォームに、必要事項（実施日や内容等）を入力してください

④ 実施

授業を実施します



登録フォーム

申込み状況一覧

打合せシート

実施決定フォーム

## 遠隔交流における内容登録申請フォーム

本フォームに記載いただいた内容は、コミュニティサイト内の申込み状況一覧に掲載されます。  
※登録から掲載には数日かかりますことを御了承ください。

t-kenkyu09@doken.ed.jp アカウントを切り替える

\* 必須の質問です

学校名\*

**登録する内容**

- ① 学校名
- ② 校長名
- ③ 担当者名
- ④ 学校電話番号
- ⑤ 学校メールアドレス
- ⑥ 対象学年
- ⑦ 遠隔交流の目的
- ⑧ 交流を希望する教科等
- ⑨ 実施時期（予定）

※登録された内容を見るパスワードは、令和7年10月22日付け事務連絡で北海道内の市町村教育委員会（札幌市を除く）を通じて各学校に配付しています。

